

大阪市中央公会堂保存・再生工事

受賞機関 大阪市住宅局

はじめに

「大阪市中央公会堂」は、大正7年に完成したネオ・ルネサンス様式（復興式中準パラディアン式）の建物である。大阪市の都心・中之島にあって、講演、集会、コンサートや演劇などに利用されるなど、「赤煉瓦の公会堂」として市民から親しまれ、大阪の文化・社会活動のシンボルの存在となっていたが、耐震性能が不十分であることや老朽化等の問題から取り壊しや改築も検討されていた。

昭和63年（1988）構造耐力、音響性能をはじめ、天井画、壁画などの各種実態調査の結果をもとに、多くの市民の要望に応じて、市は「保存の方向性」を決定した。学識経験者を中心とした「中央公会堂将来構想検討委員会」で、外観のほか特別室・中集会室・小集会室や玄関ホールなどを可能な限り保存するとともに、将来にわたり「公会堂」として、より一層活用できるよう整備することを基本方針とする答申がまとめられ、平成8年度から「中央公会堂

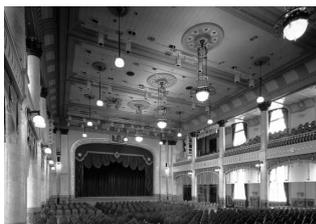


修復後の正面外観

事業の特徴

大正時代の優れた建築意匠を保存・再生することを基本とし、80余年が経過するなかで劣化しているところは改修し、大集会室など以前に大きく改変されてきたところはできる限り創建当時の姿に戻した。

最大の問題である耐震補強には、建物上部の構造補強を最小限にとどめ、優れた意匠を守る



大集会室（ホール）

プロジェクト技術検討会」を設置し、「保存・再生」のための具体的な技術方策を検討しながら、平成11年3月、保存・再生工事に着手、平成14年10月に完成した。

ることができるアンダーピニング工法による免震構造（免震レトロフィット）を採用した。

また、防災・避難面など安全性の確保や、音響・照明・舞台装置などの機能性とともに、ゆったりとした椅子や空調設備の改善など快適性

も向上させた。その他、エレベーターやスロープなどユニバーサルデザインの観点からの整備も行った。

「中央公会堂保存・再生工事」は、免震構法を用いながら、歴史的、文化的に優れた建物の外観や主要な内部意匠を「保存」するとともに、気軽に使える自由な創造の場として公会堂を「再生・活用」したものである。

事業の概要

規模構造：

鉄骨煉瓦造（屋根鉄骨造）

既存部 地上3階、地下1階

増築部 地上1階、地下2階

建築面積 2,330㎡（既存部2,164㎡・増築部166㎡）

延床面積 9,887㎡（既存部8,425㎡・増築部1,462㎡）

事業費：10,273百万円

事業期間：平成11年3月16日～平成14年9月30日

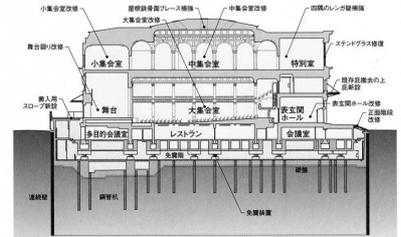
おわりに

着工にあたっては、約13,000もの市民や企業から、再生事業費の一部として募金が寄せられた。計画からTVのニュースなどでも数多く取り上げられるなど、市民の関心も高く、工事中に一般市民向けの現場見学会も実施した。

竣工後間もない平成14年12月には、国の重要文化財の指定を受けることができ、完成後の利用率は工事前を大きく上回る状況となっている。

「保存」のための保存ではなく、積極的な「活用」のために保存を行った事例として、歴史的建築物、特に、都心に数多く建つ文化財クラスの建築物の保存・活用を考えるうえで、よき参考になるものと確信している。

賛助会員 清水建設(株)、西松建設(株)



改修断面図